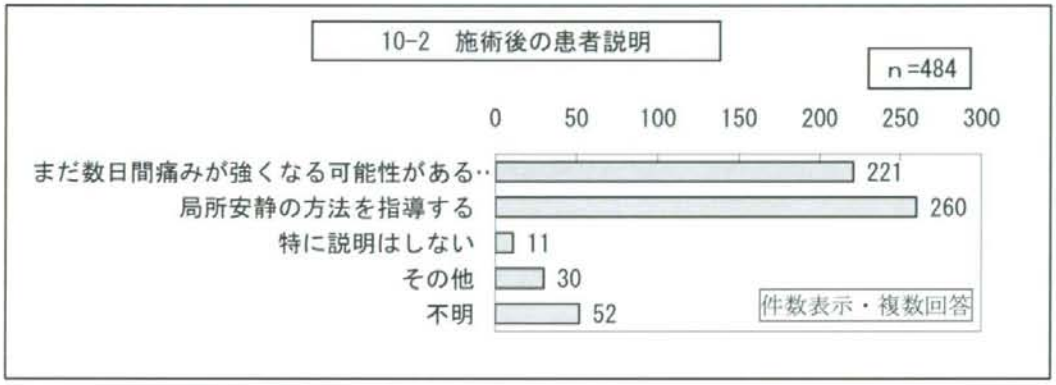
そのような患者に対し、施術後に経過の見当付けの説明を行うかどうか等については、「数日間、痛みが強くなる可能性がある」と説明する者が 38.5%、「局所安静の方法を指導」が 45.3%となっており、「特に説明しない」1.9%、「その他」5.2%とほとんどの者が対応を行っている。

質問：②そのような患者に対して施術後に経過の見当付けの説明を行いますか。

ア　まだ数日間痛みが強くなる可能性があることを説明する
イ　局所安静の方法を指導する
ウ　特に説明はしない
エ　その他（　　）



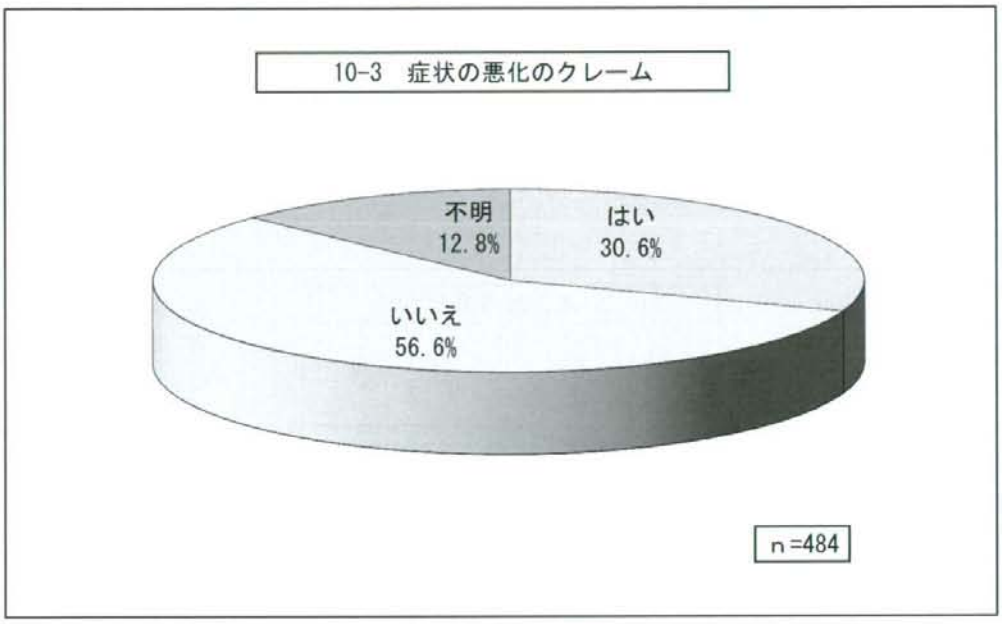
全体	まだ数日間痛みが強くなる可能性があることを説明する	局所安静の方法を指導する	特に説明はしない	その他	不明
100%	38.5%	45.3%	1.9%	5.2%	9.1%
574 件	221 件	260 件	11 件	30 件	52 件

施術後に症状の悪化を訴えられたことがある者は１４８件（30.6%）、ない者は２７４件（56.6%）となっており、施術方法に配慮している者が圧倒的にもかかわらず、症状悪化で患者からクレーム等が発生していることがわかる(10-3)。

質問：③施術後に症状の悪化を訴えられたことはありますか。

ア　はい

イ　いいえ

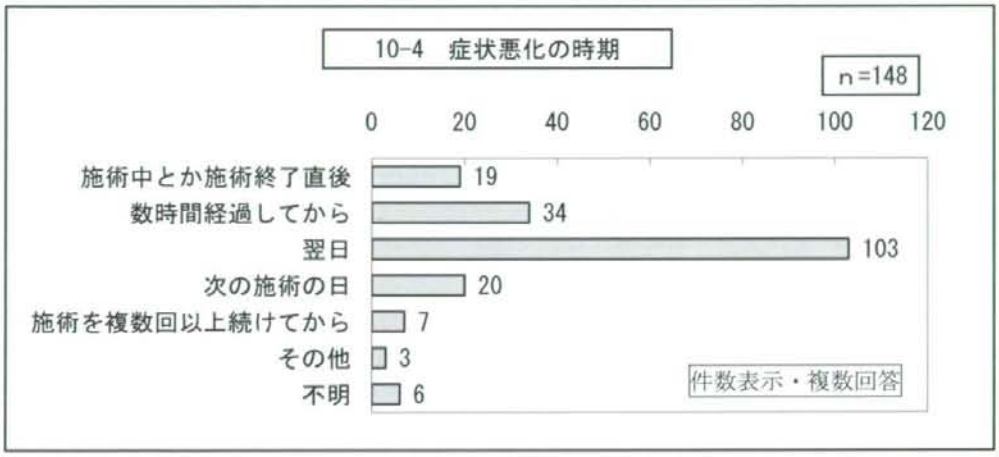


全体	はい	いいえ	不明
100%	30.6%	56.6%	12.8%
484 件	148 件	274 件	62 件

症状悪化の時期については、「翌日」が１０３件と圧倒的に多く、「数時間経過後」が３４件、「施術中または施術終了直後」が１９件となっており、「次の施術の日」２０件、「複数回の施術後」が７件と比較的すぐに問題が発生している(10-4)。

質問：④　③で「はい」に○をつけた方にお聞きしますが、症状の悪化はいつごろだったのでしょうか。

ア　施術中とか施術終了直後
イ　数時間経過してから
ウ　翌日
エ　次の施術の日
オ　施術を複数回以上続けてから
カ　その他（　　）

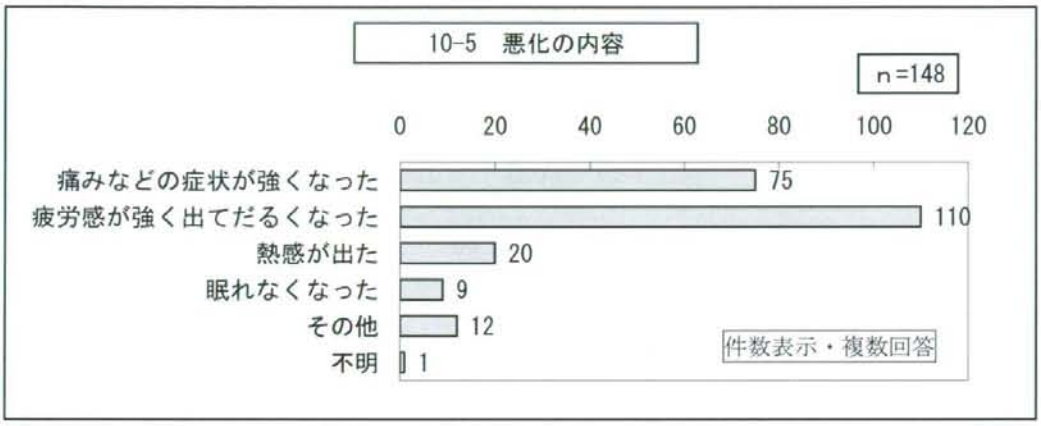


全体	施術中とか施術終了直後	数時間経過してから	翌日	次の施術の日	施術を複数回以上続けてから	その他	不明
100%	9.9%	17.7%	53.6%	10.4%	3.7%	1.6%	3.1%
192 件	19 件	34 件	103 件	20 件	7 件	3 件	6 件

症状の悪化の内容については、「疲労感が強く出た」１１０件、「痛みなどの症状が強くなった」７５件が多く、「熱感が出た」２０件、「眠れなくなった」９件となっている(10-5)。

質問：⑤　③で「はい」に○をつけた方にお聞きしますが、訴えの主な内容はどうでしたか（症状の悪化を複数の人で経験している場合は、該当する項目すべてに○をつけてください）

ア　痛みなどの症状が強くなった
イ　疲労感が強く出てだるくなった
ウ　熱感が出た
エ　眠れなくなった
オ　その他（　　）

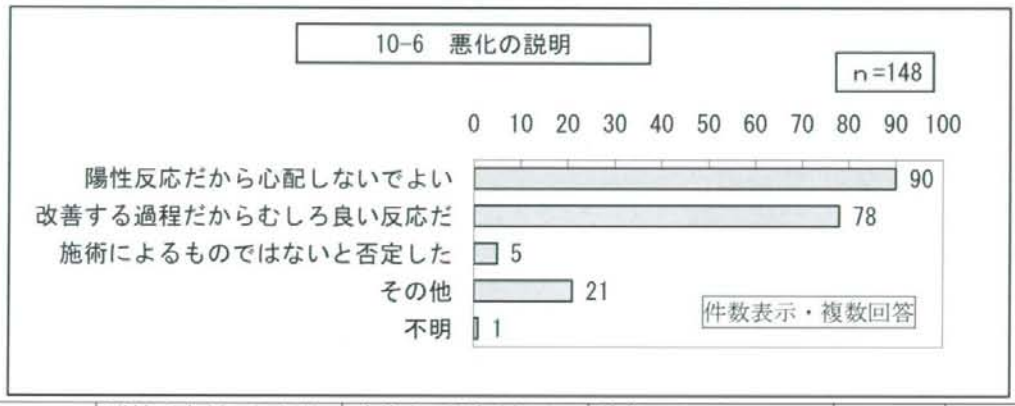


全体	痛みなどの症状が強くなった	疲労感が強く出てだるくなった	熱感が出た	眠れなくなった	その他	不明
100%	33.0%	48.5%	8.8%	4.0%	5.3%	0.4%
227 件	75 件	110 件	20 件	9 件	12 件	1 件

施術者としては、このような症状に対して、「陽性反応だから心配ない」が９０件、「改善する過程だからむしろよい反応」７８件と説明を行っている場合が多いが、「施術によるものではないと因果関係を否定」が５件となっている(10-6)。

質問：⑥　⑤の訴えに対し、どのように説明しましたか（症状の悪化を複数の人で経験している場合は、該当する項目全てに○をつけてください。）

ア　陽性反応だろうから心配しないでよい
イ　改善する過程だからむしろ良い反応だ
ウ　施術によるものではないと否定した
エ　その他（　　）



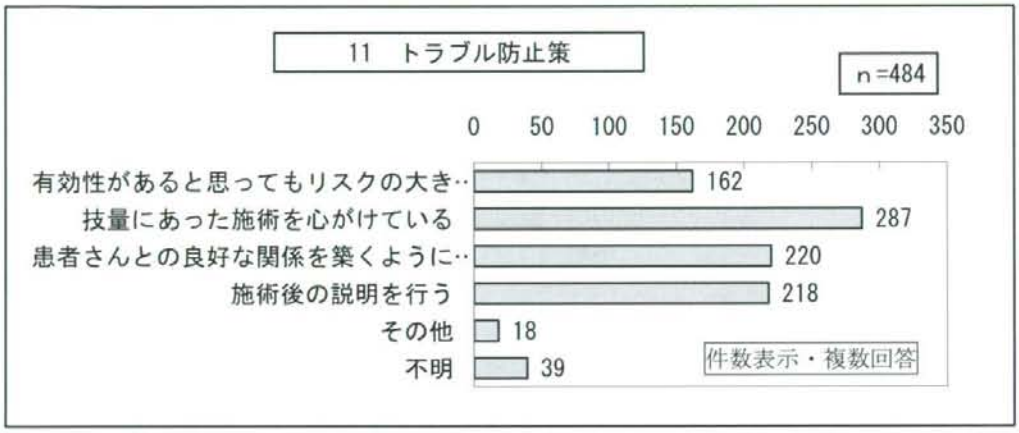
全体	陽性反応だから心配しないでよい	改善する過程だからむしろ良い反応だ	施術によるものではないと否定した	その他	不明
100%	46.2%	40.0%	2.6%	10.7%	0.5%
195 件	90 件	78 件	5 件	21 件	1 件

（7）トラブル防止の配慮

施術者はトラブル防止のためには、「技量にあった施術を心がけている」が２８７件、「患者さんとの良好な関係の構築」２２０件、「施術後の説明を行う」２１８件、「有効だと思ってもリスクの大きい施術は行わない」１６２件となっている（11）。

質問：１１　あなたは施術に関するトラブルを未然に防ぐため、どのような方法を取っていますか。

ア　有効性があると思ってもリスクの大きい施術は行わない
イ　技量に合った施術を心がけている
ウ　患者さんとの良好な関係を築くようにしている
エ　施術後の説明を行う
オ　その他（　　）



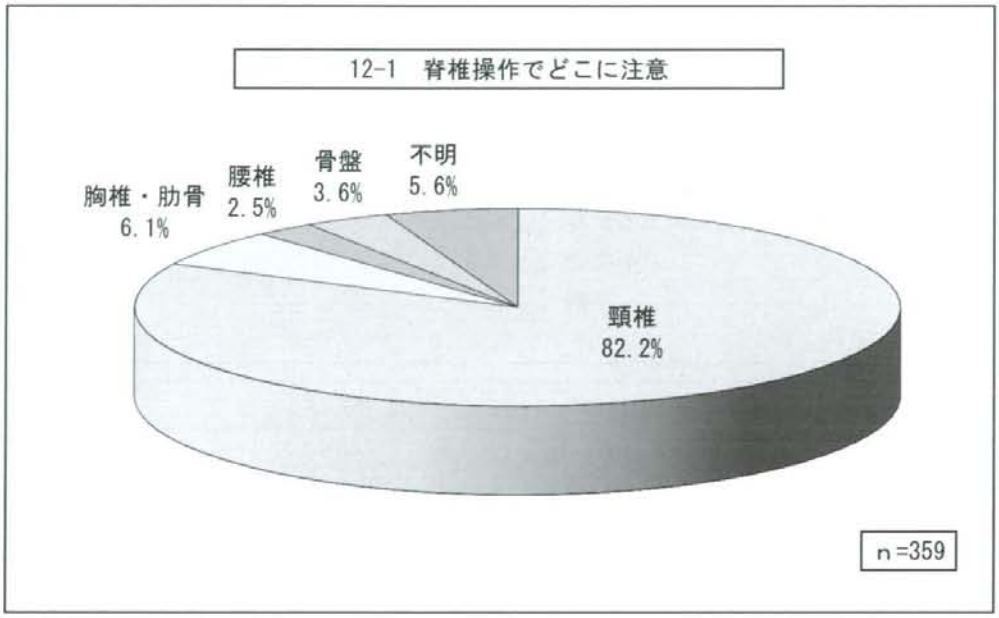
全体	有効性があると思ってもリスクの大きい施術は行わない	技量にあった施術を心がけている	患者さんとの良好な関係を築くようにしている	施術後の説明を行う	その他	不明
100%	17.2%	30.4%	23.3%	23.1%	1.9%	4.1%
944 件	162 件	287 件	220 件	218 件	18 件	39 件

（8）脊椎操作の注意事項

脊椎操作の中で、どこの部位に対する操作を最も注意して行うかという質問に対し、「頸椎」という回答が 82.2%と圧倒的に多く、ついで、「胸椎・肋骨」6.1%、「骨盤」3.6%、「腰椎」2.5%となっている（12-1）。

質問：１２　①脊柱操作を安全に行う上で、どの部位の操作にもっとも注意を払いますか。一つだけ選んでください

ア　頸椎
イ　胸椎・肋骨
ウ　腰椎
エ　骨盤

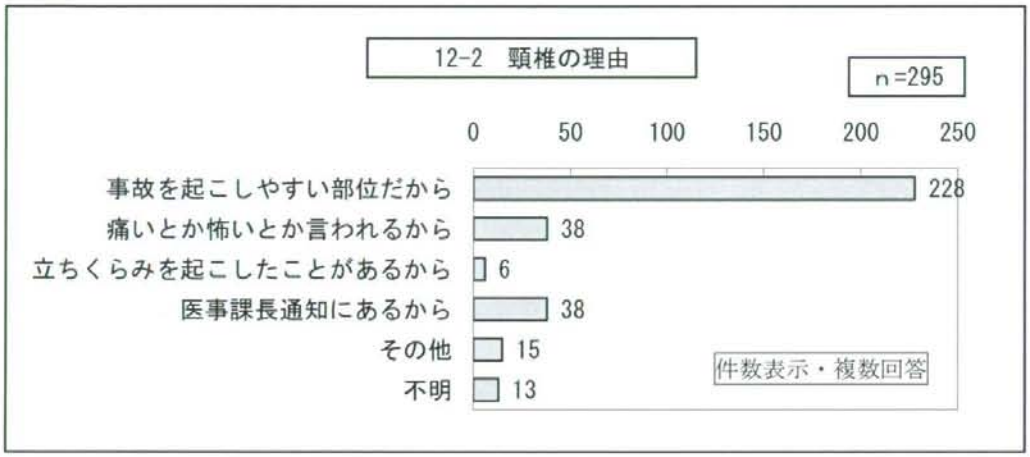


全体	頸椎	胸椎・肋骨	腰椎	骨盤	不明
100%	82.2%	6.1%	2.5%	3.6%	5.6%
359 件	295 件	22 件	9 件	13 件	20 件

「頸椎」と選んだ理由としては、「事故を起こしやすい部位だから」が２２８件と圧倒的に多く、「痛いとか怖いとか言われるから」が３８件、「医事課長通知にあるから」３８件、「立ちくらみを起こしたことがあるから」６件となっている（12-2）。

質問：②「頸椎」を選んだ方は理由を挙げてください

ア　事故を起こしやすい部位だから
イ　痛いとか怖いと言われるから
ウ　立ちくらみを起こしたことがあるから
エ　医事課長通知にあるから
オ　その他（　　）



全体	事故を起こしやすい部位だから	痛いとか怖いとか言われるから	立ちくらみを起こしたことがあるから	医事課長通知にあるから	その他	不明
100%	67.5%	11.2%	1.8%	11.2%	4.4%	3.9%
338 件	228 件	38 件	6 件	38 件	15 件	13 件

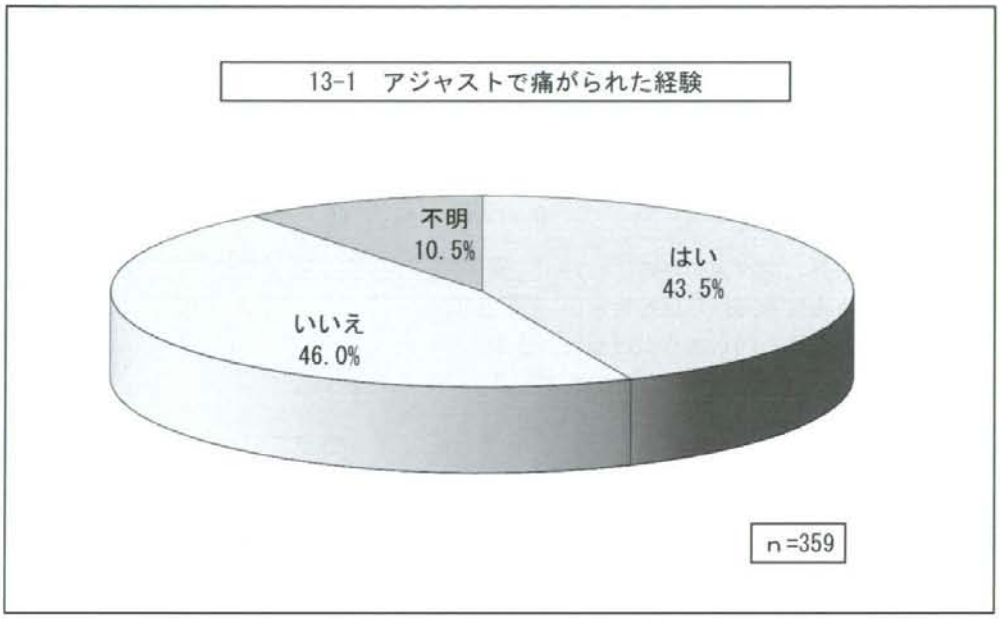
（9）アジャストの実施状況

アジャストを行ったときに痛がられた経験があるかという質問に対し、「はい」１５６件（43.5%）、「いいえ」１６５件（46.0%）となっており、相当数が患者に苦痛を与えた経験がある(13-1)。

質問：１３　①アジャストを行ったとき、「痛い」とか「痛い顔」をされたことがありますか

ア　はい

イ　いいえ

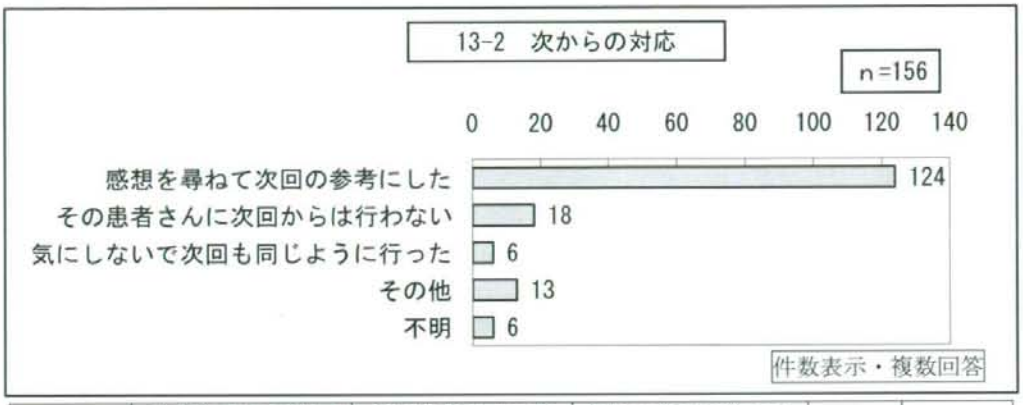


全体	はい	いいえ	不明
100%	43.5%	46.0%	10.5%
359 件	156 件	165 件	38 件

アジャストに対し、患者が痛がった場合の対応として、「感想を尋ねて次回の参考にした」が１２４件と圧倒的に多いが、「その患者さんには次回からアジャストをしない」が１８件、「気にしないで次回も行った」が６件となっている（13-2）。

質問：②　①で「はい」に○をつけられた方に、「次からの対応」をお聞きします。

ア　感想を尋ねて次回の参考にした
イ　その患者さんには次回からは行わない
ウ　気にしないで次回も同じように行った
エ　その他（　　）



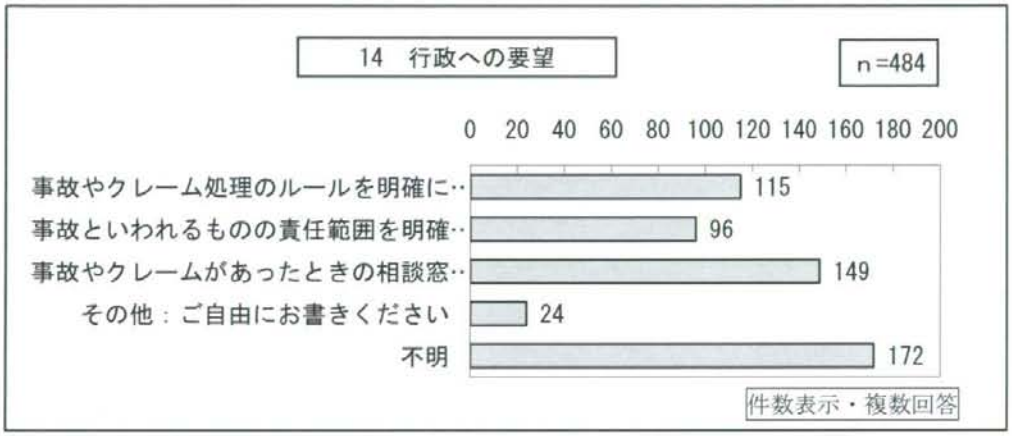
全体	感想を尋ねて次回の参考にした	その患者さんに次回からは行わない	気にしないで次回も同じように行った	その他	不明
100%	74.2%	10.8%	3.6%	7.8%	3.6%
167 件	124 件	18 件	6 件	13 件	6 件

(10) 行政への要望事項

事故やクレームについての行政への要望事項としては、「相談窓口を設けて欲しい」が１４９件、「事故やクレームの処理のルール化」が１１５件、「事故といわれるものの責任範囲を明確にしてほしい」９６件となっており、行政が何らかの交通整理をすることを希望する者が多い（14)。

質問：１４　事故やクレームについて、行政に対して希望することはありますか。

ア　事故やクレームの処理のルールを明確にしてほしい
イ　事故といわれるものの責任範囲を明確にしてほしい
ウ　事故やクレームがあったときの相談窓口を開いてほしい
エ　その他（自由にお書きください)。
（　　）



全体	事故やクレーム処理のルールを明確にしてほしい	事故といわれるものの責任範囲を明確にしてほしい	事故やクレームがあったときの相談窓口を開いてほしい	その他：ご自由にお書きください	不明
100%	20.7%	17.3%	26.8%	4.3%	30.9%
556 件	115 件	96 件	149 件	24 件	172 件

(11) 事故やクレーム防止についての自由記述

事故やクレームを防ぐために施術者が心がけていることや、行政・業界全体に対して要望することなどを自由に記述してもらったところ、次のとおり。

質問：１５　以上の質問事項以外で、あなたが事故やクレームを防止するために心がけていること及び業界全体で事故やクレームを防ぐために注意したらよいことなど自由にお書きください。

主な回答

- カイロ業界や力量に合った差別化をしてほしい
- だれもが認める公認の勉強会があったら良いのではないでしょうか
- 禁忌症情報等を広く提供するシステムがほしい。
- 心がけるべきことは、賠償保険加入、患者に対する事前事後説明、自分自身の技量アップである。また、全体として、もっと勉強すべき（いろいろなこと）
- 施術法の説明や患者さんの質問に対応する時間をおしまないこと
- 正しい知識を身につけ、患者との信頼関係を築くことが財産だと思う。
- 新患の場合、紹介内容が明確でないことがあるので症状によっては病院を紹介する。飛び込みの患者さんを集めるような広告などの集客活動を絶対しない
- 私の療法は、操体法を主体にした療法を行っています。まず患者さんが来られると体全体の骨格の検査を行い、操体法療法を終えてから、あらかじめ骨格の狂いを見つけ、骨盤から順に上方へ調整をしていきます。特に骨盤の調整はブロックをつかい腰椎に無理をかけない方法を考案し、捻りを入れた衝撃を加えます。この方法ですと腰椎を痛める事を予防できます。このように全国の会員の皆さんが一人一人安全な方法を考え事故防止に努力して頂きたいと思います。
- １．問診の重要性の把握
  ２．結果を急いだ施術計画を立てない
  ３．説明と同意を確実にする
  ４．技術の向上に努める
- 注意は常に心がけるも、最善は施療対象者との意思疎通を図ること。
- 問診の時、施術中にも過去、現在の症状をできるだけ細かく聞くことにしています。「施術後まれにだるさや痛みが出る場合があるが、長くとも３日で体が良い方向に向かう反応なので、心配しないでください」と施術後に必ず説明します。そのため、患者さんが痛みが出ても「いわれた反応が出た」と思って心配しません。
- 無理をしないこと
- 患者さんの体力・年齢・体質・体格等を考慮して施術する。そのため最初の２、３回は様子を見ながら行う。腹八分の施術を心がける。何回も施術しても病状が変わらない時は病院受診を勧める。症状の一番の原因を見極めるなど
- 療術師会員であるという自覚をもって禁忌症ガイドラインを忠実に守ることと施術に際しては無理な施術をしないこと、患者が安心して体を任せてくれるよう愛情をもって施術するように心がけている。

- 患者さんが病院で診察を受けているかを良く聞きます。また、骨粗鬆症でないかも確認します。問診を詳しく行う様にしています。
- 私は施術前と施術後に説明を行い、患者さんに納得してもらってから施術を続けます。
- 施術は全て体のバランスを重視している。力を入れすぎないようにしている。
- 常に研究努力して、自分の力量を考えて施術する。
- 禁忌症のガイドラインに沿った施術を実施。技量に応じて危険性の高いものはカイロ手技の適応かどうかを判断し他の種目による施術を行う。療術は、その点応用範囲が広いので、ほとんどの場合適応できる。
- カイロプラクティック以外の施術法で軟部組織に柔軟性を与えることで事故も自然に防げるのではないでしょうか。けがや不快な思いをさせないかぎりクレームは無いと思います。
- 患者の状態を正しく把握して、それにあった施術方法、施術量を考えながら行う。療術で対応可能な範囲を明確にして内外に周知すると共に、療術ならではの全人的施術を心がけて行く事が必要。
- 技の世界でありますので個人差は避けられません。当面は技術者の裾野を拡げることにより、より高いレベルを確保する必要があると思います。
- ①痛みの激しい時ほど、いわゆるアジャストは避ける。
  ②安静位で激しい痛みや強いしびれ感が増すなら避ける。
  ③アジャスト時にセットアップ段階で痛みやしびれ感があるなら避ける。
  ④年齢、症状、視覚からの情報を大切にし、無理は避ける。
  ⑤患者とのコミュニケーションを大切にし、施術前に信頼関係を構築する。
- 当業界のほとんど全員が頸椎へのアジャストの有効性を認知していると思いますが、医事課長通知により表立って施術できない状況です。保険においても補償の対象外となり憂慮しながらの施術を強いられております。
- アジャスト方法は旧来の技術を使っていると事故が多い。またアジャストする場合、アジャストのベッドによる障害もある。昇降式ドロップテーブルは必須条件。なぜ病気になるのか基本的な考えが確立されていない。
- 年齢を考えてアジャストする。頸椎などへの施術は軽く行うので入らない場合、押圧にとどめる（無理な力を入れない）。筋肉をある程度ゆるめてからアジャストする。
- 患者様との信頼関係を気づくことが一番大切。それができない内は決して無理をせず、功を焦らず、説明（インフォームドコンセント）を十分に行うことが必要と感じる。また、頸椎のズレは骨そのもののズレより、骨盤のズレ、筋肉の拘縮の緩解で解決できることが多い事をもっと周知徹底させるべきだと考える。
- 勉強と体験を続ける。先輩の意見を良く聞くこと。
- 「それは事故ではありません」という事例をまとめたものや、事故の原因をまとめたものが欲しい。事故は原因があって発生するからである。
- 危険でない方法を開発して施術すること。事故例をできるだけ沢山公表して教訓とする。
- 施術前後の説明や、病気や病状の詳しい聞き取り（カウンセリング）技量の向上が必要。
- 初診時の問診票にリスクに関する同意のサイン欄を設けており、説明の上、同意をしてもらい同意サインを貰っている。

- 技術の研鑽。数多くの症例を経験すること。学理の向上。
- 事故やクレームを阻止するには自分の技量を過信せずに技量に合った施術を心がける事だと思う。
- ①患者各々の体質症状に合った施術を行う。
  ②患者の症状が少しでも悪化すればクレームが来なくとも来院しなくなる。
  ③痛みがある場合は特に症状の原因、施術内容を良く納得して貰うようにしている。
- 無理をしない、施術前にしっかり説明し了解を得る、予約のみ受け入れ、紹介者を必ず聞くようにしている。
- 効果があって害のない施術を心がけている。まだ開業して6ヶ月なのでロコミ紹介の患者のみに施術している。重病の方はお断りしている。
- 毎回来られている患者様に対しても表情、身体・筋肉の固さの程度を良く把握し、ソフトな療法へ徐々に力を加えて行くようにしています。時折、施療に対して力を強くしていくようにしています（女性が多く結構痛がりの方が多いのでソフト施術しています）。
- ターゲットは骨ではなく筋緊張のバランスを取ることであり、結果的に骨格が整う施術を心がけている。無理な強い施術をやらないことで事故はかなり避けられると思う。経験上この程度まで大丈夫と思っても、その点まで一度に持っていかず、2度に分ける等患者に過大な負荷をかけないで止める技術を磨きたい。
- 食事と排泄の指導とその症状にあった操体法もしくは筋トレの指導。症状によっては医師の診断をすすめている。
- 施術予後などを説明し施術する。
- 十分な観察と説明、納得ずくの施術。7分目までの施術（十分行ってはいけない→やりすぎの効果に）。
- 患者さんに痛めた状況、状態を問診し、何回となく問診を繰り返すことによって痛めた状況、状態を見いだすようにしている。そして力量以上のことは施術を行わないように心がけている。患者さんに怖いというイメージをつくらないように、患者が「また来ます」ということを言葉にするような施術に心がけているつもりです。
- 勉強と技術の向上をはかること、無理はしないこと、業界全体で指導教育する機会をふやすこと。
- アジャストはできるだけさける（検査で危ういと思った場合はしない）。
- その行為が患者のためになるのかを自問自答しながら施術しています。事故を起こした事例をホームページなどで公表し、多くの人がそれを参考にできるようにしてほしい。
- 何回もアジャストしない。無理にアジャストしない。
- 人体の構造通りに操作を行う。
- 禁忌症セミナーの参加を心がけている。
- 患者さんとの信頼関係と正しい検査と適正な施療。療術師としての人格形成とカイロプラクティックと医学的知識技術の研究。業界全体のレベルアップ。
- ほんのわずかでも事故が予測できる場合は、絶対強い矯正は行わない。
- 事故の事例を報告してもらい原因もわかれば未然に防ぐことができます。業界団体の禁忌症講座を受けてカイロ手技の適応外にすべき問題と鑑別の知識を学んでいる。

- 椎骨は周囲の組織と一体となっている物だからできるだけ周辺の組織の健全化を通して矯正につなげるように心がけている。
- リスクマネージメント教育の徹底。スキルアップ教育。
- 患者は治さなくても良いからつぶすな！を常に心がけています。
- 焦らず背伸びをしない。本当の意味で患者さんにとってベストな施術を、その施術者の技術の範囲で行う。自らを知る。
- ①患者とのインホームドコンセントに十分に配慮する。
  ②その場で適切に対処し、誠意ある対応をする。
  ③施術以外の本人のできる施術への参加（生活習慣など）について良く説明する。
- 問診をしっかりすることで事故は減らせると思います。
- 安全は全てに優先する（効果は二の次である）。痛みや違和感のある箇所は矯正しない。急激なアジャストや施術は慎む。時間がかかっても安全を優先した施術を心がける。
- 無理なアジャストは絶対に行わない。まず緩解操作を重点的に行い、手技以外（光線）の施術を行う等事故のない様緩やかな施療を心がける。
- カイロプラクティックは高度な技術修得を要し、現状では誰もが手軽にできる物では無いと思います。技術を修練する研修がしっかり行われることで全療協の地位が向上し社会の信用が得られる会員が増えるのではないかと思います。
- 患者の病歴、仕事内容、スポーツ歴などデータを良く聞く。病院に行っている場合はどういう検査、処置をしているか聞く。病院（整形、内科）と提携しているのでＸ－ＰとかＭＲＩとか依頼して見せてもらっている。生理的検査も参考にする。一番大切なのは患者さんと良く話をすること。
- 患者側の立場を考えるとき、民間療法で全額自己負担でも来院してくださる事への感謝に応えるためにも、施術者は信頼関係を密にするインホームドコンセントと施術の説明、施術計画の立案を行う事が必要であると考えます。現実的には施術側が考える理想的な長期的な通院を考えていない患者もいるのでケースバイケースで対応しないといけない。思考の違いは必ず不平不満を作りだし、クレームの芽になりがちなので誤解を生まない言動に注意したい。
- ①患者との信頼関係を十分に築くこと、そのためには施術者の知識、特に患者が納得し、患者から尊敬される位の科学的知識の涵養が必要である。
  ②施術者の謙虚な態度人格が患者との信頼を構築する為に必要である。医療関係者は患者の不幸（病気等）に対応するので患者が抱いている不安感・不信感を払拭してやる事が必須条件である。このためには患者の全人生に思いを馳せ、（対症療法に留まらず）全人格的視野で謙虚に対応する事が信頼構築に繋がると考え、実践している。
- 笑顔の心がけと挨拶と患者様との話（痛くなった経緯を聞き出すようにする）。大人、子供を問わず心配や不安を与えない様にする。
- 強いアジャストはしていません。軽いアジャストを心がけています。
- 私は軽く触れて筋肉や筋の拘縮しているところを緩めるだけ、また、患者さんの多くは水不足、運動不足と噛んで食べ無いことが原因となる場合が多いので施術前後に水を飲んで頂く。又は冷えからくるリューマチ、神経痛、むち打ち等は足湯をして頂く。また健康食品が影響している方にはやめていただいています。

- 来院時に詳しい経過を沢山聞き取り、体質や精神状態なども参考にし施術を行っております。また無意識に患者様の心を傷つけないよう細心の注意を払いながらコミュニケーションをとっております。
- ・問診をやはり細かく行うことが必要（初診の患者は特に）
  ・先天的な疾患や異常が無いか有る方はその部位を細かく尋ねるようにしている。
  ・急性の方はなるべくｽﾗｽﾄ操作を行わない。痛みを抑える処置を優先し、無理に早く治そうと思わない。痛みが収まってから本格的な施術に移るように考える。それで患者が去る場合は追わないことも大事
  ・患者と沢山会話する事が大事だと思う、差し障りのない施術で１回こっきりの施術で終える事も必要
  ・施術に完璧はないので、患者さんの生活習慣にも気を向けてもらう話をする。
  ・しかるべき医療機関の受診を勧める時期や症状の見極めの勉強は絶えずしなけらばならない。
- ・施術前の検査と施術内容の説明をすること
  ・頸椎へのアジャストは避ける（指示の通り）
    ①アジャストの苦手な方には操体法などの手技を用いる
    ②急性期の強い痛みの場合はアイスマッサージや光線を用いる
    ①②を使い分ける
    ※保険の事は詐欺（あたり屋）がいる可能性があるのでこちらからは言わない方が良いと思います。
- 施術中に絶えず患者さんの様子に気を配っています。
- 大阪療術師会等療術師会に、事故やクレームの相談窓口（担当者）があれば安心して施術にとりくめる。
- 一人一人個人差があるのでアジャストに関わる手技を啓発してほしい。
- ・一度で治そうとしない
  ・無理な操作はしないこと
  ・患者さんとの信頼関係を築くこと
- ありがとうと感謝の言葉と笑顔、常に心がけてあいさつをする（大人、子供を問わず心配を与えないようにする）。ひとりひとりの状態を聞きながら説明する。
- 事故やクレームを起こさない為には人間関係を良くし、誠実な施術を行う。
- 無理な操作は行わない。クライアントの人間関係を重視して常にクライアントさんの立場に立って施術を心がけたいと思います。
- 基礎医学を根底にして一番事故を起こしやすい頸椎の調べに心から注意して取り扱うことが大切だと思います。特に神経の集合部位には注意。
- 自分自身の体の健康に注意する。臨床経験の浅い頃に起こりやすいので注意。初診の時にどこが悪いのか良く聞く。私も研修の頃に頸椎部位に痛みを感じて首が回らなくなったことがある。現在、電気治療と光線治療を併せて施術しています。
- 日本に於いてはカイロプラクティックの業務が確立していないので施術者のレベルが違いすぎる。クライアントの利益を守る上で何らかの資格制度を作る必要があると思う。

- いろいろな人がいるので患者さんに応じて細心の注意をすること。軽い刺激でも骨は正常に戻るのでソフトタッチを心がけると事故は起きないと思います。
- ①電話予約時に通院、病気、医師診断病名等詳細に聞く。
  ②当院につきましては１００％紹介
- ①メタボリック調で足腰膝などに痛みを持つ人には注意する。
  ②老人の骨折に注意
  ③借金のある人にも注意。クレームをつけてくることがある。
  ④紹介の無い人は注意
  ⑤通院中の病状、薬など聞く
- 療術師が今後考慮しなければいけない点は解剖学的／生理学的な知識をもっと理解した上でそれぞれの療法に取り組む事が大切では無いかと思います。またアジャストにこだわるのではなくアジャスト前の段階で改善が見られるのであれば積極的にそれらを取り入れそれらの指導も含めて指導をされるのであれば業界全体の事故やクレームも少なくなると思います。
- 初診の問診時に、患者さんにしっかり話を聞くこと。紹介者にもある程度の病状を聞くことにしている。
- 私は電気治療をしている者ですが、治療を受けに来られたときに治療の説明を分かり易くするように心がけている。
- 高度なテクニックを使える人ほど事故はありえないと思う。あるとすれば過剰治療による一時的な反応過多が考えられるので、特に初診時に過剰な治療にならないよう心がける。
- 業界全体で、現場で施術している者の知識（体の機能構造）と触診能力のレベルアップをし、療法の選択（無理はしない）を行う療術師を育成することが事故やクレーム防止に繋がるのではないか。全ての施術者本人が自己の技術レベルを自覚することが前提となる。
- 施術するときには細心の注意を払い、５０才以上はアジャストは軽くする。子供はアジャストしない。ソフトに部位の周りを緩める。頸椎・腰椎のアジャストは大変壊れやすい部位なのでソフトに基本通りにする。５０才以上の方は病気などにかかったことが無いか聞く。
- 業界全体の事故例を小冊子にまとめて定期的に発行出来れば非常に参考になると思います。
- ・神経質な人は特に注意して施術している。
  ・好転反応の注意書きを渡して説明している。
  ・紹介者のいない人は施術をお断りしている。
  ・あまり年の取った人はお断りしている。
  ・病気の有無等過去のケガ等の注意。
  ・人格の見極めをきちんと行っている。
  ・最初は施術するにしても弱めの施術から行っている。
  ・体質によって施術方法を選んでいる。
- 現在の自分の技量にあった施術を患者さんにきちんと説明して理解して貰った上でおこなう。
- ①５０才以上の方には局所安定を中心とし軽矯正でやめる。
  ②ズレのひどい場合はしない。
  ③骨の手術をしている人はしない

- 患者の訴症を聞くなり「此処が悪いのだ」といきなりアジャストを行うと事故を起こす。人体とはそんなに簡単なものではない。たとえ骨の歪みから痛みが生じていても、それに伴う体の歪みも生じている。その歪みは骨格だけではなく、体を支えている筋や筋膜にまで及んでいる。ましてや内疾患が存在している場合は殊更そのことに配慮し、押圧療法を含まないストレッチやカイロ手技で体のバランスを調整した上で可動性の許す範囲内でアジャストを施すのでなければならない。嬉しいことに体のバランスを整えることにより体は柔軟さを取り戻しアジャストをし易くなり、その結果、事故を防ぐことが出来る。
- 初めて治療するときは患者さんの緊張を取るためにコミュニケーションを図っている。また治療後は好転反応が出るかもしれないことを告げる。治療中は同じ病状の患者さんの過去の例をいくつか挙げて安心納得させ、また病院で言われた実例などを挙げてその患者さんが一番早く楽になる方法を一緒に考える事を心がけている。心のケアが一番大事だと考えている。
- 人体は楽にすれば退化する。原則、薬効は退化の第一歩である。局部治療は出来るだけ避け、全体治療に重点を置き、患者と共に努力することを日常に活かす。
- アジャストする前、筋肉の遊びをとる過程で患者さんに「痛くないか」を聞く。「痛い」といわれたら、すぐに止めて筋肉を緩めるだけにする。筋力低下が見られるときや痛い部位を動かす時は絶対に患者に確認する。３回施術して症状が改善されなかったらお医者さんで診て貰うよう勧める。
- 骨は筋肉が柔軟になれば動かしやすいので、筋肉の緊張を取るために施術を要する所に光線及び電気を当てて温めてからの治療を心がけたいと思っています。
- 新患には必ず好転反応の説明を行っている。
- 業界全体で、危険と思われる手技について正しい指導または統一のマニュアルを作成し、業界全体として知識・技術の向上及びある程度の基礎的な知識や技術の統一を図るべきだと思います。
- アジャストをするときは、きちんと説明をしてから行います。アジャストをするかどうかを迷った時は行わない。カイロプラクティックの技術向上のための講座が定期的にあるとありがたいです。
- 禁忌症の確認。観察をしっかり行い、見込み治療を行わない。自分の腕を知り、背伸びの治療はしない。施術中は常に患者さんに「痛いですか」と尋ねて患者さんに負担のかかる操作をしないように心がけている。
- 自分の技量にあった施術を心がけています。最初のカウンセリングで大体の施術内容を患者と相談しながら決めていきます。それで納得頂いた場合は、次からは任せて頂けます。その時も十分な説明と陽性反応なども説明します。一度で結果を出し急ぎせず、今よりも悪くならないくらいの心構えでやっています。業界の先生方には「自分のやり方が一番」と思いこまず、患者と向き合って頂き業界全体が不透明にならないようお願いしたい。
- 最小限の操作と患者の自動力を利用して筋肉の感覚を計るように努めている。当方の施術に納得がいかない場合は、その場で話し合い、継続的受診は勧めない。
- まず安全有効な施療法を選ぶ。施術者養成の過程で安全な施療とはどういう事か法律上の問題等も徹底して教える。また一人でも多くの施術を体験して貰うことが重要かと思います。そのための施設設備等の事も考える必要性を感じます。
- 事故は絶対惹起させない信念をもって施術を行っている。
  ① 自分の技量を超えた施術を行わない。

② 施術前にどのような施術を行うかインホームドコンセントを行う。

③ 外観検査触診等から症状の原因を追及し説明を行う（患者の職場や家庭等の環境のチェック等も行う。

④ 禁忌症の施術を行わない。

⑤ 初回の施術後改善するまでの見通しを説明し、通院の確認をする。

- 最近は、若者も年寄りも含めて骨粗鬆症が多く、手技で力を入れて施術するのに危険を感じるので、血液の循環（温熱他）を良くする方法や食事カルシウムを取る方法の指導も必要と思います。
- 事故を防止するために可動域を拡げたり、炎症や痛みを光線及び手技療法で小さくしたり消したりしてから、アジャストをする理由を良く説明してから患者さんに納得して貰った上で行う。
- ①患者さんの筋力、柔軟度、骨量、②職業、③現在の体調、④発症の経過、過去の状況、⑤医療機関で診断された禁忌症に当たる病名アンケート、⑥現在の症状を応えて貰うカルテ（療術録）に記入してもらう。以上を来院された際に療術録に記入し患者の話を聞いた上で施術に入っている。
- 常に体組成計（？）にて測定して現在の状況、骨量、体脂肪、基礎代謝等把握している。また新患さん&久しぶりの患者さんには問診票および自己申告書に記入して頂き、事故を起こさないような施術プログラムを立てています。体全体のバランスと皮膚・腹膜の硬直、肌荒れもチェックしています。ヒーリングミュージック、アロマテラピー等も取り入れ、患者さんにリラックスして頂き、良き施術が出来るような工夫をしております。家庭でもできる体操をレクチャーしています。インホームドコンセントは必ず行い、「この様な状態なので、この様な施術します」と話し、施術に入ります。また好転反応の事も良く話をし、患者さんには「注意書き」を渡して理解・勉強していただいております。
- アジャストは危険だというイメージがあるので、まず初診の患者さんにはよく説明するようにしている。女性の患者さんは特に注意している、最初は弱めに行って、次回から少しずつアジャストのスピードをあげるといった努力をしている。
- フローチャートを作成して好転反応の状態を説明し、既往症も反応として出てくることを説明している。業界全体での考え方を統一したフローチャートを作成することが望ましい。
- 施術は手技のみ（完全無痛５０年以上の研究から機器は一切使用しません。マニュプレーションによる骨盤調整（弱い方法を）を必要とした患者さんにのみ説明し了解した上で実施。その後、指導体操と歩行をしてもらいます。了解は、本人の言葉でもらっています。アジャストは一切しない方針で、最初から今に至るまで守っています
- 当院でも圧倒的に中高年から老人の患者が多く、アジャストが出来る状態の患者は少ない。痛みを取り除く事を主体とした施術になるのが現状。自分の技量を過信せず出来る事をやれば良いのではないかと思う。
- ①病状の原因と部位を把握するために患者の話を傾聴する、患者を観察する。

  ②治療方法等について患者に充分説明をする（コミュニケーションと理解）。

  ③症状や状態に見合った施術をする（禁忌症にアジャストしない） a 年齢　b 医師から受けている診断名　c 気分・不安・体力　d 状態によっては施術せず、病院に受診することを勧める。

  ④施術後の状態・様子について確認する。様子を観る。

  ⑤常にベテランの先輩に相談する。学ぶこと

・ 症状・年齢・体質を考慮して８０％程度の圧でアジャストしている。無理をせず技量に合った施術をして欲しいと思います。

・ １視診　患者の健康状態。特に顔

２問診　病状並びに日常の生活の状況

３触診　脊柱全般の病状と脊柱の転位

例１　右内膝痛　この場合、脊柱４番の変形

例２　左足首痛　仙骨２番の転位、病状と転位場所が一致した場合は矯正致します。